

図 13.12 トレンチ - 2 での遮水グラウトの有無によるトレンチ - 2 の下流側での経時的塩分濃度変化

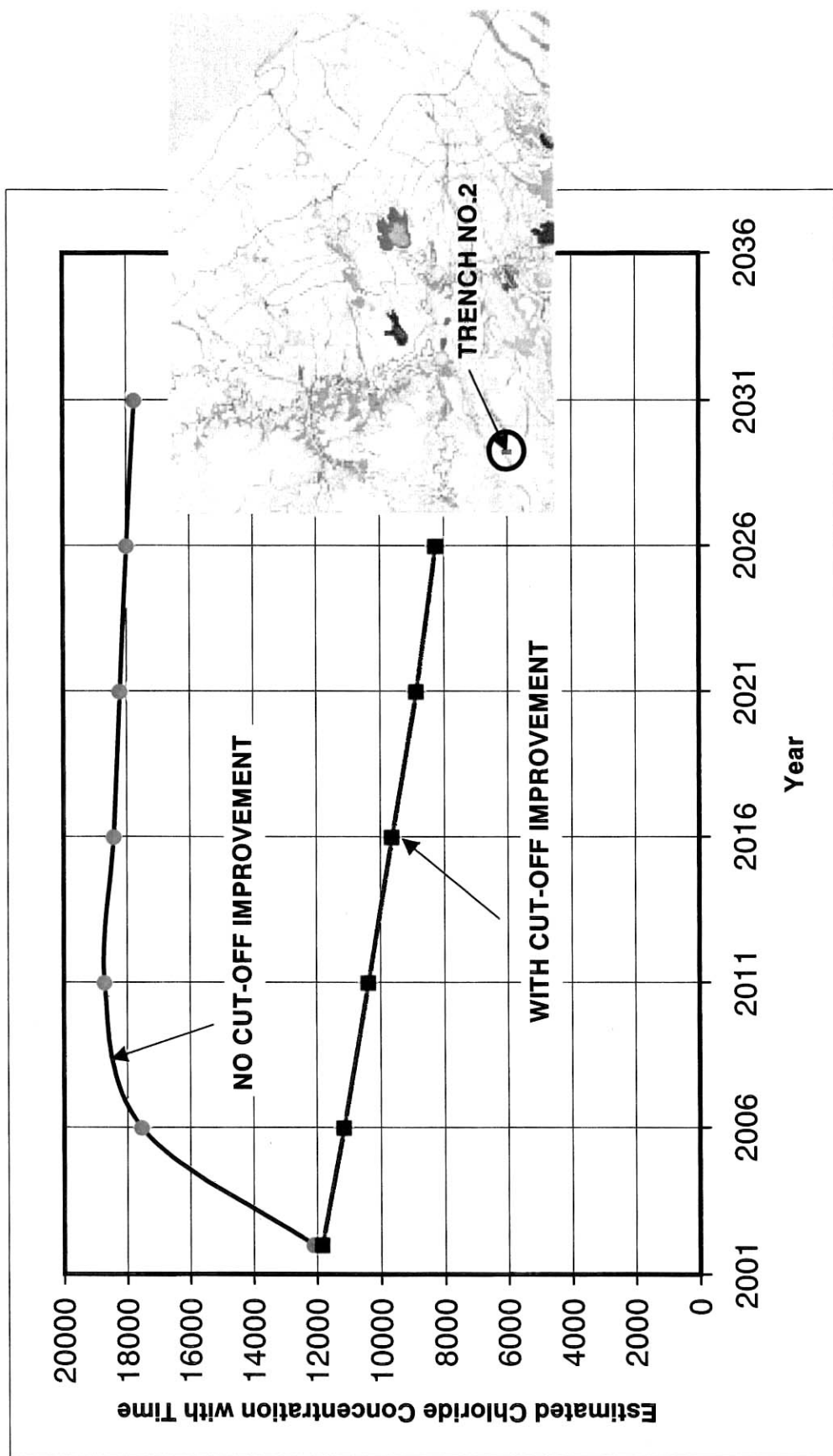


図13.13 トレンチ - 2 での遮水グラウトの有無による KM14 地点での経時的塩分濃度変化

13.3.2 KM14 およびトレンチ-2 における完全遮水

トレンチ-2 および KM-14 において完全遮水した場合の解析を行った。ワジ・スーク川 の上部（廃さい堆積場から KM-14 まで）における設置後 5 年、10 年、20 年および 25 年後の解析結果を図 13.14、図 13.15、図 13.16 および図 13.17 に示す。

トレンチ-2 における遮水によりワジ・スーク川上部の Cl 濃度は 25 年後に 6,000 mg/L から 7,000 mg/L の範囲に減少している。これは 3 つの要因によるものである。

- 地下水の初期 Cl 濃度が高い（6,000 mg/L から 20,000 mg/L ）
- 浄化効果のある支流がこの地域に存在しない
- 雨水の浸透量が比較的少ない

しかし、汚染対策による浄化は、図 13.14～図 13.17 に示されるように経時的な Cl 濃度の減少により明らかであり、汚染対策の有効性が確認された。